

保育者養成と絵本研究の方法

三木 麻子

MIKI Asako

保育のなかで、児童文化財としての「絵本」の役割は大きい。保育者養成課程のさまざまな講義のなかで、学生は絵本に触れ、学ぶ機会を持っている。筆者が担当する「児童文化」や「子ども学ゼミ」のなかでも、できるだけ絵本に触れる機会を持ち、主体的に絵本に向き合う方法を学ぶことができるように工夫している。しかし、実習に際しての学生の絵本選択は、学んだ知識を活かしながらも、目についた、絵がかわいい絵本を選ぶ傾向も見えている。

より効果的に絵本に向き合うための方法の考察と、実践の報告を行う。

キーワード：保育者、児童文化財、絵本、

1. はじめに

本学では、「保育内容・言葉」や「乳児保育」で、年齢に応じた絵本の選び方や、読み聞かせの方法を、筆者が担当する「児童文化」でも絵本の種類や絵本の本質について学び、図書館蔵書を利用して、数多くの絵本に実際に触れるように工夫している。しかし、絵本に関して十分な時間がさけているとは言い難い。

一方で、時間的に余裕をもって取り組める科目に「子ども学ゼミ」がある。そこで、筆者は「子ども学ゼミ」において、隔年で絵本と童謡をテーマとしている。また、図工の分野でも、絵本制作を学ぶ機会が与えられる。ただし、ゼミは得意を伸ばすことを主眼としているため、選択制で、毎回20名あまりの学生にしか受講の機会はない。

多くの学生は授業の中で、少しずつ絵本を学んでいる。

具体的には、本学での講義で、絵本は以下のように取り上げられている。2018年度のシラバスに拠ると(数字は15回のなかでの順を示し)、

【保育内容・言葉Ⅰ】(担当者：田中)

6. 絵本の読み聞かせ(教材研究・指導案作成)
7. 年齢に応じた絵本探し
8. 絵本の読み聞かせ(実践・第1グループ)
9. 絵本の読み聞かせ(実践・第2グループ)

10. 絵本の読み聞かせ(実践・第3グループ)

【乳児保育Ⅱ】(担当者：川戸)

7. 乳児と絵本・手遊び

8. 乳児と絵本・手遊び(模擬保育と記録)

とあり、「保育内容・言葉」「乳児保育」はともに、実践に役立つ授業展開であることが伺える。

また、「児童文化」では、

【児童文化】(担当者：小林・三木)

4. 児童文化と保育(絵本・紙芝居)

5. 子どもと絵本

とし、小林と三木がそれぞれ1回のテーマに絵本を割り当てている。保育士資格取得を希望する学生全員が受講する「児童文化」のなかで、三木担当分の「子どもと絵本」で行う内容について、先ず報告したい。

2. 絵本を学ぶ

児童文化財としての「絵本の学び」は、「児童文化」のテキストとしている『ことばと表現力を育む 児童文化』(萌文書林)〈注i〉に拠るところが大きい。当該章の執筆者である生駒幸子氏は、読み聞かせの意味(注ii)、絵本の定義、絵本の種類、本を選ぶ、などのテーマで絵本に対する基礎的な理解を示している(注iii)。

絵本についての基礎的な知識は、2018年度に行った教員免許更新講習「絵本研究」(2018/07/15)でも簡単にふれたが、講習に参加した、保育園、幼稚園、こど

も園の保育士・幼稚園教諭・保育教諭16名（1980年代生まれ14名、1970年代生まれ2名）が、写真絵本や文字なし絵本、バリアフリー絵本などの絵本の種類の多様さに驚かれたことから、現場では、物語絵本を中心に選書されていることが窺われ、学生の選書との類似を感じた。

また、読み聞かせの意味を、同書は、

- ①大好きな人と過ごすひととき
- ②本は子どもにとって、一つの体験
- ③想像力を豊かに育む
- ④言葉の美しさや楽しさを知る
- ⑤読書のはじまり

とあげている。声を出して読んで伝える絵本が、大切な誰かのために読むという心を伝え、私のために読んでくれているという時間の記憶を残す、情緒の形成に

大きく寄与するものであることが第一にあげられていることを、講習参加者が改めて再認識されたことも絵本の特性として興味深かった。

さて、「児童文化」の授業では、絵本の種類を学び、その実際の本を図書館で探すことと同時に、実習などで知った、子どもが喜ぶ絵本、よいと思った絵本についても学生に聞いている。

また、本学の学生には、入学前学習の「国語課題」として、同期の入学生に薦めたい絵本について、原稿用紙1枚にまとめることを課している（注iv）。

その際に、推薦本としてでてくる絵本と2回生、3回生になって出される絵本を比較すると、以下のようになる。

（表1）には、複数の推薦者がいる書名をあげた。

（表1）2015年～2018年の推薦本

児童文化の推薦本			新入生推薦本		
	題名	人		題名	人
1	はじめてのおつかい	11	1	ぐりとぐら	11
2	ぐりとぐら	10	2	はじめてのおつかい	7
3	だるまさんが	9		くれよんのくろくん	7
	バムとケロ(シリーズ)	9	3	はらぺこあおむし	6
4	おおきなかぶ	8	4	ママがおばけになっちゃった	4
	こんとあき	8		ずーっとずっとだいすきだよ	4
	はらぺこあおむし	8		しろくまちゃんのほっとけーき	4
5	くれよんのくろくん	7		こんとあき	4
6	ないたあかおに	6	14	ひきのあさごはん	4
	そらまめくんシリーズ	6	100	万回生きたねこ	4
	わたしのワンピース	6	5	りんごかもしれない	3
7	いないいないばあ	5		バムとケロのにちようび	3
	からすのパンやさん	5		ちよっとだけ	3
	きんぎょがにげた	5		スイミー ちいさなかしこいさかなのはなし	3
8	へんしんシリーズ	5		おまえうまそうだな	3
	もうぬげない	5		おおきなかぶ・ロシアの昔話	3
	もこもこもこ	5		もったいないばあさんのいただきます	2
	もったいないばあさん	5	バムとケロのおかいもの	2	
9	ぐるんぱのようちえん	4	6	どうぞのいす	2
	しろくまちゃんのほっとけーき	4		つみきのいえ	2
	ねずみくんのチョッキ	4		そらまめくんのベッド	2
	ねないこだれだ	4		ぐりとぐらの1ねんかん	2
	ママがおばけになっちゃった	4		からすのパンやさん	2
	りんごかもしれない	4		いつもいっしょに	2
100	万回生きたねこ	3	あさえとちいさいもうと	2	

いないいないばあそび	3
おぼけのてんぷら	3
スイミー ちいさなかしこいさかなのはなし	3
ちょっとだけ	3
どうぞのいす	3
どこいったん	3
ハンタン シリーズ	3
もっちゃうもっちゃう	3
わにわにのおおけが	3

児童文化の推薦本は、3人以上が推薦した本を載せることになったが、それは、短期大学で学び、実習を経験するうちに知った絵本が豊かになったということを示しているだろう。

一方で、新入生推薦本は、入学者全員が国語課題を選択する訳ではないので、絶対数は少ない。比較して載せたいのは、数ではなく書名である。

ここには近年、大人気となった「だるまさんシリーズ」や、ヨシタケシンスケ氏の作品がみえる一方、学生自身が幼い頃から親しんできた「長生きの絵本」もしっかりと選ばれている。

「へんしんシリーズ」（へんしんトンネル、へんしんトイレ、へんしんマラソンなどシリーズ化されている。あきやまただし作、金の星社）は、保育実習で教えて戴き、子どもたちが大喜びすると学生が教えてくれた作品である。

入学前学習は、原稿用紙に書いて提出した推薦文を添削することで「国語」の課題としているのだが（注 iv）参照）、「児童文化」の授業では、推薦本の一覧表を元に、図書館から借りだしてきた本を持って、推薦のプレゼンテーションをすることとしている。照れもでて、うまく進めない学生もいるが、最後に、各自の推薦本が、既習の絵本の種類のなかのどれにあてはまるかを全員で考えることにしている。

前掲のテキストには、絵本の種類を、

- ①昔話・民話の絵本
- ②物語の絵本
- ③知識・科学の絵本
- ④赤ちゃん絵本
- ⑤文字なし絵本
- ⑥写真絵本
- ⑦しかけ絵本
- ⑧言葉・詩の絵本
- ⑨バリアフリー絵本

とするが、（注 iii）にあげた『絵本から学ぶ子どもの文化』では、順は異なるが、さらに、

- ・ポストモダン絵本

をあげて10種類としている。しかし、概ね9～10種類に分類されると考えてよい。

ただ、例えば、とりごえまり作、LaZOO絵の『おおきなかぶ』は「はじめてのしかけえほん」シリーズとあるように、赤ちゃん絵本であり、しかけ絵本でもあり、また、民話絵本でもある。

分類する種類の重なりも考えながら、分けていこうとする姿勢が学生に見え始め、作者の制作意図を考える糸口になればよいと思われる。

3. 絵本を深く学ぶ

本学の子ども学ゼミは、絵本に興味を持つ学生の対象のひとつとなる。

図工のほうでは、

【こども学ゼミA】（担当者：小林）

「絵本づくりユニット

～みんなで楽しく絵本をつくらう～

3. 絵本との出会い（1）
4. この絵本が大好き！（それぞれの絵本観と絵本の読み聞かせについて）
5. みんなで絵本を作ろう！（絵本の発想法）
6. 共同制作絵本の制作（ストーリーの作成）
7. 共同制作絵本の制作（プロット作成と担当ページ分担）
8. 共同制作絵本の制作（コラージュ素材の制作）
9. 共同制作絵本の制作（下絵の作成）
10. 共同制作絵本の制作（絵の作成）
11. 共同制作絵本の制作（絵の仕上げ）
12. 共同制作絵本の制作（絵の完成と文章の校正）
13. 絵本の装丁（貼り重ね）

14. 絵本の装丁（裁断と表紙づくり）

【子ども学ゼミB】（同）

「絵本づくりユニット

～世界に一つだけのオリジナル絵本をつくろう～」

1. 絵本との出会い（2）
2. 保育と絵本
3. 絵本のテーマについて
4. オリジナル絵本のテーマ設定（ディスカッション）
5. オリジナル絵本のテーマ設定（発表）
6. オリジナル絵本の制作（ストーリーの作成）
7. オリジナル絵本の制作（プロット作成）
8. オリジナル絵本の制作（キャラクター設定）
9. オリジナル絵本の制作（下絵の作成）
10. オリジナル絵本の制作（絵の作成）
11. オリジナル絵本の制作（絵の仕上げ）
12. オリジナル絵本の制作（絵の完成と文章の校正）
13. オリジナル絵本の装丁（貼り重ね）
14. オリジナル絵本の装丁（裁断と表紙づくり）

などがある。共同制作で1冊の絵本を作り上げ、さらに【子ども学ゼミB】では各自がオリジナルの絵本を作製する。

筆者は、子ども学ゼミで隔年に絵本をテーマとして、「絵本を知っておはなしづくりをしよう」という内容を展開している。

通年で受講することを前提に組み立てたシラバスは、以下のとおりである。

【子ども学ゼミA・B】（担当者：三木）

4. 絵本について知ろう
5. 主役となるキャラクター探し
6. 設定キャラクターの絵本集め
7. まとめ レポート の作成
8. お話作り
9. 報告会
10. 好きな作家を探そう
11. 好きな作家の絵本集め
12. レポート作成と報告
13. 絵本に出てくる楽しい言葉
14. 言葉の絵本探し
15. レポート作成と報告
16. 昔ばなしの絵本を探そうー海外編ー
17. 昔ばなしの絵本集めー海外編ー

18. 昔ばなし絵本の違いを知ろうー海外編ー
19. 昔ばなしのパロディ創作
20. 昔ばなしの絵本を探そうー日本編ー
21. 昔ばなしの絵本集めー日本編ー
22. 昔ばなし絵本の違いを知ろうー日本編ー
23. 昔ばなしのパロディ創作
24. 報告会
25. 物語絵本を探そうー起承転結ー
26. 物語はどこが絵になるのか考えよう
27. レポート作成と報告
28. 私のお話づくり 構想と人物
29. 私のお話づくり ストーリー
30. 発表批評会

これは、絵本探しのテーマを決めて、そのテーマに沿った作品をたくさん読んで、その特徴を探ろうとするものである。

さらに、図工のゼミと関連づけることもできるように、絵本からお話作りを学ぶことも意図している。

具体的には、

- 1) 女の子がテーマの本・動物が主役の本・男の子の本・・・

絵本のなかで、(女の子) (男の子) (犬) (ねこ) (うさぎ) (おおかみ) (きつね) などどのようなキャラクターとして描かれるか、一定の方向付けはないだろうか、ということを検討する。

その結果、キャラクターの特性を生かしたストーリーを作ることを目指しているが、第1回目の研究と創作は固定観念に拠ってしまうことが多い。以下、

- 2) 同じ作家の作品をまとめて読んで作風を掴む。
- 3) 楽しい言葉の絵本を探す。
- 4) 日本の昔話絵本を集めて読む。
- 5) 海外の昔話絵本を集めて読む。
- 6) 物語絵本を提示し、起承転結を探すことで、ストーリーの展開法を学ぶ。
- 7) 物語と絵の関係を学ぶ。絵本の文章だけを示して、ページはどこで区切れ、どのような絵が適切か考える。
- 8) オリジナルストーリーを考える。

と、最後のオリジナルストーリー創作まで段階を踏んではいるが、学生にとって、毎回のテーマに追われ、積み上げる意識が希薄になってしまっている。特に、絵本であってもたくさんの本を読むことに苦手意識をもつものもいて、短いもの、赤ちゃん絵本を選択しよ

うとすして逆に難しいテーマとなってしまう結果となる。いずれにしても、いろいろな絵本に触れるという目的は達成できているので、絵本を知るところまで深化させることが次の課題である。

3. 絵本研究

さて、学生が苦手とする昔話絵本の研究を、昨年度の教員免許状更新講習で行った。

現場で働く先生方は、生活発表会などでの劇制作に携わっているので、昔話にも興味があり、「花咲かじいさん」や「桃太郎」、「鶴女房」、「赤ずきんちゃん」、「シンデレラ」などの細部に微妙な差異があつて、伝承された地域や風習の影響を受けている可能性を指摘すると、では、どのストーリーを話したり、劇化すればよかったのかと興味を持たれた。

昔話絵本は、その解説に、

日本や世界の国々に伝わる昔話・民話・説話・神話などをもとに、文章を起こして絵をつけて創作した絵本です。昔話などは、本来、語り継がれているものですが、絵とおはなしで子どもたちに読んで聞かせることができます。同じ昔話でも作り手（作家・画家）が違えば、まったく雰囲気異なる絵本も生まれます。作り手によってはもともとの物語に手を加えてパロディ化した絵本もあるので、幼い子どもにふさわしい内容かどうか吟味して選ぶ必要があります。

生駒幸子『ことばと表現力を育む 児童文化』とあり、誰もが知っている話ではあるが、文章化、絵画化した作家によって差異が生まれ、パロディ化する危険性もあることを指摘するが、逆にパロディが生まれるくらい、基本的事項は万人に理解されていることを指摘している。また、

各地に伝わる伝承昔話に再話者が文章をつけ、さまざまな画家が絵を描いています。ただし、容易に改作されているものの中には原話の意図が失われてしまっているものもあるため、気をつける必要があります。

浅木直実『絵本から学ぶ子どもの文化』でも、改作の危険性を指摘している。

改悪もありうるということだが、ディズニー映画のように必ずハッピーエンドにすることも改悪となることも注意しておきたい。

残酷な面もある昔話をどのように子どもたちに読み

聞かせることのできる絵本として成立させるか、という点でも比較の対象となるだろう。

さて、教員免許状更新講習では、講習中の2コマを昔話絵本の調査と、発表に充てることとし、時間内に仕上げるために、同題の絵本を3冊選んで、ストーリー・登場人物・呼び名・ストーリーに必要な小道具など、その話と特定できる重要な人物やアイテムを考えておいて、そこに差異がないか、表にピックアップしていくことを提案した。

16名が、任意に選んだ話は次のとおりである。

- ・花咲かじいさん
- ・かぐや姫
- ・かちかちやま
- ・ももたろう 3名
- ・おむすびころりん
- ・ヘンゼルとグレーテル 2名
- ・シンデレラ
- ・こびとのくつや
- ・みにくいアヒルの子
- ・赤ずきんちゃん
- ・おやゆびひめ
- ・3匹のクマ
- ・ジャックと豆の木

日本の伝承昔話もあり、海外の作品もあったが、どの方も、ここまで違いがあるとは思っていなかったという反応があった。

今回は3冊であったが、多く読めば読むほど、その差異が重要か重要でないかは見分けられるようになる。「かちかち山」を選んだ受講者は、伝承物語の残酷さにも考えが及び、原作を受け入れられる年齢を考慮すべきことを指摘された。

比較し、選ぶという方法を、地道に本を読んでピックアップしていくことで経験した受講者は、今後の絵本選びでも細部にも眼を向けられるようになったと思われる。

許容し楽しめる改作と、子どもの心には響かない、簡素化、省略は区別すべきことに気付かれたのは幸いである。

3. 終わりに

どんな絵本を選べばいいでしょう、教えてくださいと事前アンケートに書かれた受講者が、絵本は自ら読んで選ぶべきであることに目覚めている。

作家研究、作品研究の方法を絵本に試みただけでも、自ら考える重要性を自覚できるのである。実際に絵本や劇を提供していく現場では、その必要性が切実に理解される。

よい絵本を紹介する書籍はたくさんあるが、それを読むよりはまず、実際の絵本に触れてみる、見てみる、読んで見ることが重要であるだろう。

4. 引用文献・参考文献

〈注 i〉 川勝泰介・浅丘靖央・生駒幸子編著、P a r t 2 「児童文化財を保育に生かそう」第4章 「絵本と童話」(生駒幸子)。

〈注 ii〉 絵本を読んだあとの子どもたちの想像を膨らませた遊びや活動までを含めて、絵本の楽しみを「読みあう活動」と呼ぶ仲本美央氏の提言もある。『絵本から広がる遊びの世界—読みあう絵本』(これからの保育シリーズ④、2017年、風鳴社)。

〈注 iii〉 同様のテキストには、浅木直実編著『絵本から学ぶ子どもの文化』(2015年、同文書院)、正置友子・大阪保育研究所編『保育のなかの絵本』(2015年、かもがわ出版)などがある。

〈注 iv〉 「入学前学習の取組——国語課題を中心として——」(番匠明美との共著、2015年、『神戸夙川学院大学・夙川学院短期大学 教育実践研究紀要』【2013-2014年合併号】) pp37-49 にその実際を報告している。

ピアスーパーバイザーからのコメント

本論文は、今日の保育者養成課程における絵本の扱いに関する問題に注目している。書店に溢れる絵本の中からどれを選べばよいか、選択が難しい中で、保育者として子どもに益する絵本を選ぶことにもっと慎重になってもよいのではないかという提言であると思われる。そこに文学研究の手法を取り入れ、自ら考えることのできる絵本選びを学生に指導することを目指す本論文は、多くの教員が共有すべき知見を示していると思われる。(担当：岡崎公典)